

令和2年度 中学校教育研究会

道徳科学習指導案

指導者 北信教育事務所 小林 誠 先生
共同研究者 信州大学准教授 高柳 充利 先生
日 時 令和2年7月10日(金) 第3校時
授業学級 3年C組(39名)
授業会場 3階学習室
主 題 名 「私の生きる道」
内容項目D-(22)「よりよく生きる喜び」
授 業 者 矢澤 拓真

1	本質に迫る生徒の姿	1
2	テーマ	1
3	テーマ設定の理由	1
4	主題名・学年	1
5	主題の目標	1
6	「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育む」 ための手だて	2
7	教材化	2
8	本時案	6
9	資料 本校3学年の道徳科年間計画	7

信州大学教育学部附属長野中学校 道徳科
研究者 矢澤 拓真 野口 育美 平田 真理
戸塚 拓也 中村 俊介 今井 悠太
坂口 香織 米山 聡 佐藤 大樹

1 本質に迫る生徒の姿

よりよく生きていくための基盤となる道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む生徒

2 テーマ

自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための指導の在り方

3 テーマ設定の理由

本校道徳科では、よりよく生きていくための基盤となる道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む生徒の姿を目指している。このような姿を具現するためには、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育む必要があると考えている。

「ある武士親子の決断」(令和元年12月・2年 内容項目C-(14)「家族愛、家庭生活の充実」)では、「川中島の合戦(仮想)」を前に、武士親子としてどのような決断をすればよいか家族会議を開き、家族の在り方について考える学習を構想した。そこでは、物語に登場する武士親子の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境を語り合う活動を位置付けた。その中でT生は、「家族の中で、どんな立場だとしても、守るべき、一番大切に考えるべき存在だと思う。」と考えた。これは、T生が役割演技を通して感じた様々な立場からの心境と自らの家族に対する思いを重ね合わせ、家族の在り方を多面的・多角的に考えた姿だと考える。このことから、家族の在り方について考える学習において、物語に登場する人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境を語り合う活動を位置付けることは、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むために有効であることが見えてきた。

また、その後の社会科の授業において「犬伏の別れ」について学習したT生は、歴史的事実とともに、当時の武士社会で生きる昌幸の心境について、家族を守る父親としての思いを想像しながらまとめを記入した。これは、社会科の学習において、道徳科で学習した道徳的価値を想起し、歴史的事実だけではなく、その背後にある昌幸の家族愛にまで思いを巡らせながら考えた姿だと考える。このことから、道徳科の内容項目と各教科・領域の資質・能力を関連させることで、道徳的諸価値をより多面的・多角的に考えていくことができるのではないかと考えた。

そこで、「私の生きる道」において、よりよく生きることについて考える学習を構想する。そこでは、道徳科の内容項目と各教科・領域の資質・能力を関連させた年間計画を作成し、本題材においては、道徳科の内容項目D-(22)「よりよく生きる喜び」と社会科の資質・能力の基礎を関連させた題材展開を位置付ける。そして、物語に登場する人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境を自我関与させながら語り合う活動を位置付ける。このような学習によって、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むことで、よりよく生きていくための基盤となる道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む生徒の具現に迫るのではないかと考え、本テーマを設定した。

4 主題名・学年 「私の生きる道」・3年

5 主題の目標

人間の心には、自らの弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを理解し、人間として生きる喜びを見いだす。〔内容項目D-(22)〕

- 6 「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育む」ための手だて
- ・道徳科の内容項目D－(22)「よりよく生きる喜び」と社会科の資質・能力の基礎を関連させた題材展開を位置付ける。(題材)
 - ・よりよく生きることについて考える学習において、登場人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境に自我関与させながら語り合う活動を位置付ける。(本時)

7 教材化

(1) 内容項目D－(22)「よりよく生きる喜び」を扱う意図

本学級の生徒たちは、3年生に進級し、将来に向けて願いや理想をもって生活を送ろうとする姿がある。しかし、一方では自分を律することができず、怠けてしまおうとしたり、受検生として目の前にある現実から逃げ出そうとしたりしていく姿が見られるようになってきた。これは、生徒が毎日の出来事や考えたことを記入している生活記録からも見受けられる姿である。担任である授業者は、卒業後も未来に対して夢や希望をもったり、大きな壁にぶつかっても立ち向かう心の強さをもったりしながら充実した人生を送ってほしいと願っている。

そのためにも、生徒が道徳科での学びを中心に、各教科・領域や学校生活全般において、よりよく生きることの喜びを繰り返し自覚していくことが必要であると考え。

なお、本校グランドデザインには、校章の由来となっている「戸隠しょうまの心」が存在する(図1)。そこで掲げられている、本校で目指す生徒像の一つに、「誰に見られていなくても気高く生きる姿」とある。道徳科では、ここにある「気高く生きる」ことを、自己の内面に弱さや醜さがあることを自覚し、挫折や失敗を乗り越えて、目指す姿に向かって自己をよりよくさせていくことに喜びを見いだす姿として捉えている。

このような生徒の実態と本校で目指す生徒の姿から、本題材では、内容項目D－(22)「よりよく生きる喜び」を扱うこととし、本年度の道徳科の重点内容項目として付け加えた(図2)。

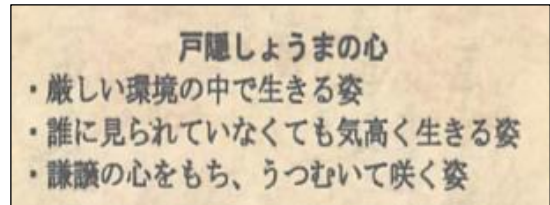


図1 戸隠しょうまの心

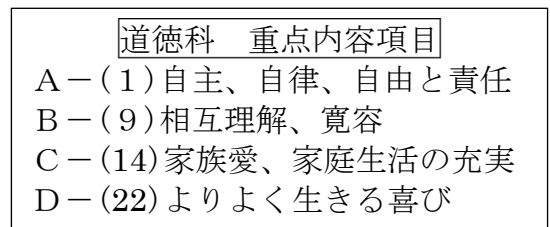


図2 令和2年度 道徳科の重点内容項目

(2) 題材に寄せた教材化

① 道徳科の内容項目と社会科の資質・能力の基礎を関連させた題材展開を位置付ける

表1 道徳科の内容項目と各教科・領域の資質・能力を関連させた授業構想
(道徳科の年間計画(章末資料)より、道徳科の内容項目と社会科の資質・能力の基礎を関連させた題材のみ抜粋)

月	教科	単元・題材	内容項目	関連させた意図
5月	社会	第二次世界大戦と日本	D－(22)	道徳科の内容項目のBにある〔友情、信頼〕、Cにある〔遵法精神、公德心〕、Dにある〔よりよく生きる喜び〕と社会科のグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質・能力の基礎を関連させることで、道徳的諸価値をより多面的・多角的に考えることができる。
5月	道徳	私の生きる道		
8月	社会	人権と日本国憲法	C－(10)	
9月	道徳	闇の中の炎		
1月	道徳	嵐の後に	B－(8)	
2月	社会	これからの地球社会と日本		

道徳科の授業と関連させた社会科の授業では、歴史学習として「第二次世界大戦と日本」を扱う（表1）。そこでは、単元の学習問題「日本はなぜ再び戦争を起こしたのか」を設定する。生徒は、当時の歴史的な事象を複数の資料から追究し、戦時下の人々の営みや思いなどに気付いていくだろう。そのような生徒に対し、教師は、長野市出身の原田要氏に関する資料を提示する。原田氏は、人を殺めることへの恐怖や罪の意識をもちながら、ゼロ戦のパイロットとして戦中を生き抜いた人物である。また、戦後、犯した罪の意識と向き合い、自らが生きる価値を模索した人物でもある。そして、50歳を過ぎた頃、原田氏は、幼稚園を開設して園長となり、将来を担う子どもたちへの教育に心血を注いだ。このような原田氏の生き方から、生徒は、自らが望まぬ戦争による罪の意識や後悔の念に苛まれながらも、自己のすべきことを見いだしていった人物がいたことに気付くだろう。

その後、道徳科の授業〔内容項目D－（22）〕において、「君たちはどう生きるか」の中の、「雪の日の出来事」と「凱旋」を扱う。そこでは、生徒が、物語の主人公であるコペルが自身の弱さを自覚し、それを乗り越えていく心境に自我関与させながら語り合うようにする。このようにする中で、生徒の中には、社会科で学習した原田氏の生き方を想起し、正しいと思う行動をとることができなかった自己の心の弱さや醜さと向き合い、よりよい生き方を見いだしていこうとしたコペルと原田氏との生き方をつなげて考えを膨らませていく生徒も出てくるだろう（図3）。

このように、道徳科の内容項目〔内容項目D－（22）〕と社会科の資質・能力の基礎を関連させた題材を位置付けることで（表2）、「よりよく生きる喜び」〔内容項目D－（22）〕の道徳的価値を、より多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むことにつながると考えた。

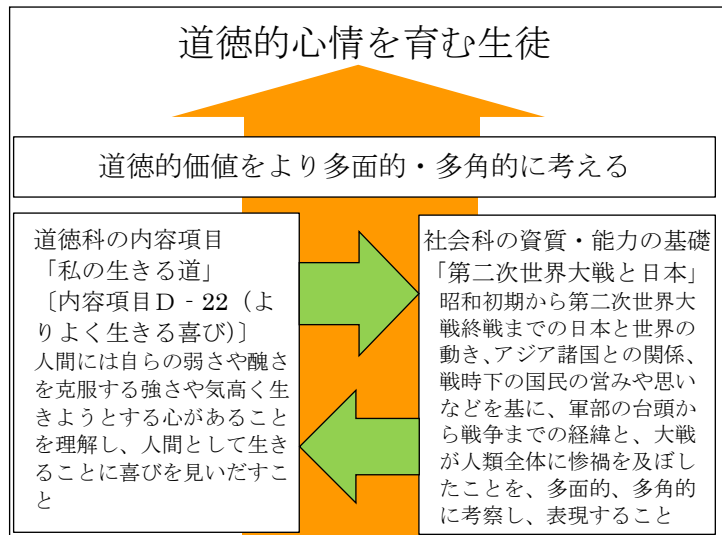


図3 「私の生きる道」〔内容項目D-22（よりよく生きる喜び）〕と第二次世界大戦と日本」の資質・能力の基礎との関連

表2 本題材の展開

場面	◇教師の指導・支援 ◆予想される生徒の反応
社会	小単元「第二次世界大戦と人類への惨禍」全12時間扱い第10時 別冊 資料p8参照
道徳①	◇題材のテーマ「よりよく生きることとは」を据える。 ◆人間は一人では生きていけない。だから、周りの人を支えていくことではないか。 ◇「『君たちはどう生きるか』を読んで印象に残った場面はどこか。」と問う。 ◆コペルが友に謝罪している場面で、自分も同じように謝罪ができるだろうかと考えさせられた。 ◇生徒から出された場面の、コペルが頭を抱えながら「どうすればいいかわかんないんだ・・・」とおじさんに訴えている漫画の一部を提示し、「コペルの悩みは、どれほどのものだったのだろう。」と問う。 ◆これまでに経験のないほどの悩みだった。自分がいなくなってしまうくらいに悩んでいた。
道徳②	本時案参照
その後	◇短学活で、生徒の生活記録などを紹介する。 ◆コペル君と原田さんが、似ていると発言した友の話を聞いてはっとした。私にも、正しいと思うことができないことがある。道徳の授業で考えたことを思い出して、弱さに打ち克つ自分でありたい。

(3) 本時に寄せた教材化

① 漫画「君たちはどう生きるか」を扱う意図

本題材では、漫画「君たちはどう生きるか」(原作 吉野源三郎 漫画 羽賀翔一)を扱う。この物語は、第二次世界大戦の2年前に刊行された「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎著)を漫画化して2017年に刊行されたものである。漫画「君たちはどう生きるか」を教材として扱う価値は主に三つある。

一つ目は、生徒が挫折や失敗から自分の力で立ち上がろうとする場面に気付きやすい点にある。「君たちはどう生きるか」には主人公であるコペルを通して、挫折や失敗から自分の力で立ち上がろうとする場面が明確に描かれている。このような場面に焦点を当てることで、生徒は、本時でねらう道徳的価値に向き合いながら理解を深め、登場人物の立場になって心境を考えることができる。

二つ目は、生徒が複数の立場になって語り合うことができる点にある。この物語には、コペル、おじさん、母親、ガッチン、浦川など多くの人物が登場し、コペルの生き方に影響を与えている。そのため、生徒は、友や教師が投げ掛けた問いについて様々な立場で心境を語り合い、多面的・多角的に道徳的価値に迫ることができると考えた。

三つ目は、漫画という特性上、セリフ、表情から登場人物の心境に迫りやすい点にある。そのため、生徒が登場人物に同化したり、そのようにすることで自身を省みたりするなど、登場人物の心境に自我関与させながら互いの考えを語り合っていくと考える。

以上の理由から、漫画「君たちはどう生きるか」を教材として扱うことで、内容項目D-(22)「よりよく生きる喜び」にある道徳的価値への理解を深め、多面的・多角的によりよく生きることについて語り合っていくのではないかと考えた。

② よりよく生きることについて考える学習において、登場人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの心境に自我関与させながら語り合う活動を位置付ける

前時、事前に漫画「君たちはどう生きるか」を読了してきた生徒に対して、教師は、本題材のテーマ「よりよく生きることは」とを据え、この物語の中で印象に残った場面を問う。生徒は、物語から共感した場面や心を動かされた場面、疑問に感じた場面などを挙げるだろう。教師は、このような場面を挙げた生徒の考えを取り上げた後、コペルが頭を抱えながら「どうすればいいかわかんないんだ…」とおじさんに訴えている場面のセリフのみを提示する。そして、「この時のコペルの悩みは、どれ



図4 前時に提示する漫画の一部

ほどのものだったのだろう。」と問う。生徒は、漫画の内容を振り返ったり、自分の体験を重ね合わせたりしながら、コペルの心境を語り合うだろう。その後、教師は、実際の漫画の一部(図4)を提示し、弱さや醜さに苦しんでいるコペルの心境を捉えていくようにする。生徒は、「これまでに経験のないほどの悩みだった」や「自分がいなくなってしまうくらいに悩んでいた」などと、コペルの心境を語り合うだろう。

本時、教師は、コペルが友に謝罪をしている漫画の一部(図5)を提示し、「コペルは、どんな気持ちでこの場面に臨んでいたのだろう。」と問い、コペルの言動にある背景について考えていく。生徒は、前時での語り合いを想起しながら、コペルの心境について思いを巡らせていくだろう。そこで、教師は、コペル役、友人役になって役割演技

をしてみることを提案する。生徒は、謝罪をするに至ったコペルの心境を想像したり、それを聞く友人の心境を考えたりしながら、役割演技に臨むだろう。

そして、教師は、役割演技を終えた生徒に、コペルの心境や友人の心境について考えたことを語り合う場を設ける。ここでは、「友だからこそ、素直に謝りづらいところはあると思った。ガッチン役の友を目の前にすると、どのように謝ろうか考えていたはずの言葉もうまく出てこなかった。だからこそ、コペルがここであきらめずに『ずっと待ちます』と言えたのは、それだけの思いをもって、この場に臨



図5 本時に提示する漫画の一部

んでいたからではないかと思った。」などのように、登場人物に自分を重ね合わせたり、登場人物の心境に心を動かされたりした自分の考えを語る生徒が出てくるだろう。また、そのような友の語りを共感的に受け止めるとともに、自分自身の体験や心境を関連付けて語りをつなぐ生徒の考えも出てくるだろう。教師は、このような生徒に対し、理由を尋ねたり、似た考えや異なる考えをもつ生徒に発言をつなげたりしていく。このようにして、登場人物の心境について考えたことを、自我関与させながら友と語り合っていく中で、生徒は、コペルが抱えた弱さや、それに正面から向き合い乗り越えようとした強さへの理解を深めていくだろう。そこで、教師は、中心発問「謝罪を通してコペルが手にいれたものは何だろう。」と問う。これに対し、生徒は「コペルが手に入れたものは、『自分自身と向き合うことそのもの』だと思う。家族や友人の助けはもちろんありがたいけど、最終的に行動して乗り越えていくのは自分だと気付いたのではないかな。」など、様々な道徳的価値に触れた考えを挙げるだろう。そして、それらはいずれもコペルが手に入れたものであることや、それを支えたものが「よりよく生きる喜び」であり、コペルの心を大きく満たしたことに気付いていくだろう。

授業の終末、生徒は本時を振り返り、友との語り合いを通して感じた、よりよく生きることについての考えをまとめたり、これまでの自己の生き方を振り返ったりしながら、「私の周りにも、私を支えてくれる人がたくさんいる。いろいろな人の支えを受けて、こうしたいという思いがあってもそれができない自分がある。コペルのように、それを乗り越えようと前を向いて生きていける自分でありたい。」などとこれからの生き方を述べていくだろう。また、道徳科の授業の後には、道徳以外の学習や自己の生活経験と本題材で扱った道徳的価値を結び付け、生活記録などに書く生徒もいるだろう。教師は、そのような内容を全体へ紹介することで、生徒が道徳的価値と向き合い、いかに生きるべきか自ら考えていくことにつながると考える（表2）。

以上のように、よりよく生きていくことについて考える学習において、道徳科の内容項目〔D-(22)「よりよく生きる喜び」〕と社会科の資質・能力の基礎を関連させた授業を位置付けたり、登場人物の立場になって、それぞれの立場の心境を、自我関与させながら語り合う活動を位置付けたりすることで、生徒は、自己を見つめ、物語を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育んでいくと考える。

8 本時案

(1) 主眼

「君たちはどう生きるか」を読み、物語に登場する人物の立場になって役割演技を行い、それぞれの立場の心境を、自我関与させながら友と語り合うことを通して、自分の弱さと向き合いながら、よりよく生きる喜びを見いだすことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導 入 ／	1 前時の学習を振り返る。	ア コペルは、友を裏切ってしまい自分ではどうしようもないほど悩んでいたのだろう。 イ このような状況であっても、コペルが謝罪をしようと思ったのは、コペルの心の中で大きな変化があったのかもしれない。 ウ 許してくれなかったら、学校へ行けないと思っていたのではないか。	◇前時の学習から、コペルがどのような心境であったか振り返る場を設ける。 ◇漫画の一部を提示し、「コペルは、どんな気持ちでこの場面に臨んでいたのだろう。」と問う。 ◇イヤウのような発言を受けて、その場面について役割演技を行い、感じたことを語り合う場を設ける。	5分	学習カード
	2 コペルが友に謝罪をしている場面の役割演技をし、コペルや友の心境について考える。	エ コペルは友に許してほしいという気持ちを強くもっていたのではないかと思った。自分もコペルであったら同じように思うだろう。 オ 自分は経験がないが、Aさんは、友を前にしたときに、謝罪することにすごく躊躇したことがあるようだ。気の知れた仲だからこそ、簡単には謝れないかもしれない。 カ 友だからこそ、素直に謝りづらいところがあるのは確かにそうだと思う。役割演技でガッチン役の友を目の前にすると、どのように謝ろうか考えていたはずの言葉もうまく出てこなかった。だからこそ、コペルがここであきらめずに「ずっと待ちます」と言えたことは、何かの強い思いをもって、この場に臨んだのではないかと思った。	◇演技をする際は、コペル役と友人3名の計4名となり、役割を変えながら演技をするように促す。 ◇生徒の考えについて、その理由などを問い返し、自我関与させながら考えを深めていくようにする。 ◇生徒の発言に対して、「友に謝罪する前はどんな気持ちでしたか。」や「謝罪の最中はどんな気持ちでしたか。」といった問い返しを行いながら、コペル自身が弱さに打ち克とうとしていく姿を確認していく。 ◇本時にねらいとする道徳的価値に迫る考えを自分との関係で捉えている生徒の考えを取り上げる。 ◇友と語り合う中で、コペルの弱さとそれに打ち克った強さについての考えが深まってきた場面で、中心発問を提示する。	20分	
展 開 ／	3 中心発問を提示し、コペルの心境を語り合う。	キ Bさんは、コペルが布団の中で悩んでいた時に支えてくれたおじさんや母親への「感謝の思い」があったのではないかと思う。そのおかげで友情を取り戻すことができた。 ク コペルが手に入れたものは、「自分自身と向き合うことそのもの」だと思う。家族や友人の助けはもちろんありがたいけど、最終的に行動して乗り越えていくのは自分だと気付いたのではないか。	◇中心発問 謝罪を通して、コペルが手に入れたものは何だろう。 ◇キやクのように生徒から出された様々な道徳的価値を共感的に受け止めながら、本時ねらいとする道徳的価値〔D―(22)「よりよく生きる喜び」〕とのつながりを確認する。 自分の弱さと向き合いながら、よりよく生きる喜びを見いだしている。(発言)	18分	
	4 本時の学習を振り返る。	ケ コペルと社会科で学習した原田さんが重なる。自分の判断に悔やむこともあるが、そこからどうしていかかが人生において大事だということではないか。 コ 私の周りにも、私を支えてくれる人がたくさんいる。いろんな人の支えを受けて、こうしたいという思いがあってもそれができない自分がある。コペルのように、それを乗り越えようと前を向いて生きていける自分でありたい。	◇本時を振り返り、授業を通して考えたことを学習カードに記入するように促す。 自分の弱さと向き合いながら、よりよく生きる喜びを見いだしている。(学習カード、発言) ◇ケやコのような、挫折や失敗といった弱さから自分の力で立ち上がっていかうといった、自己の姿について考えを深めている姿について記入した生徒に発言を促し、全体で共有する。	7分	
ま と め					

9 資料 本校3学年の道徳科年間計画

月	主題名 (資料名)	時間	内容項目	道徳科の内容項目と各教科・領域の資質・能力を関連させる際の各教科・領域の単元 (題材) 名	主題設定に関わる行事等
4	1 メダルの向こう側に	1	A (4)		入学式 生活オリエンテーション 学友会入会式
	24 村長の決断	1	C (16)		
	11 電話番	1	C (12)		
	家族 (私が築く道しるべ)	1	C (14)	技術・家庭科 「私たちの成長と家族・地域」	
5	私の生きる道	1	D (22)		公開研究会 人権教育強調月 間
	22 私が目ざした白一陶芸家・前田昭博	1	A (5)	理科 物体のいろいろな運動	
	5 「知らないよ。」	1	A (1)		
6	15 礼儀正しさとは	1	B (7)		市中大会 教育実習Ⅱ 教育実習Ⅰ
	13 私がピンク色のキャップをかぶるわけ	1	B (8)		
	19 障子あかり	1	C (17)	音楽科 〈心の歌 花〉	
7	18 聖地甲子園の土守	1	C (13)		ヒューマン・ウィーク
	9 アイツとオレ	1	B (9)		
	16 一票を投じることの意味	1	C (12)		
8	4 あの日 生まれた命	1	D (19)		教育実習Ⅰ
	33 出会いの輝き	1	B (6)		
9	17 闇の中の炎	1	C (10)	社会科 人権と日本国憲法	
	28 小さいこと	1	A (2)		
	12 根本を究めて―「お茶博士」辻村みちよ	1	A (5)	数学科 いろいろな関数の利用	
10	2 小さな出来事	1	C (11)		学習発表会 連合音楽会
	7 がんばれ おまえ	1	A (3)		
	14 三年目の「ごめんね」	1	A (1)		
	10 ぼくの物語あなたの物語	1	C (11)	英語科 「I Have a Dream」	
11	8 足袋の季節	1	D (22)	技術・家庭科 「持続可能な未来」	人権教育強調月 間
	23 命の選択	1	D (19)		
	27 『落葉』―菱田春草	1	A (4)		
	31 命と向き合う	1	D (19)		
12	20 サグラダ・ファミリア受け継がれていく思い	1	D (21)		保護者懇談会
	26 恩讐の彼方に	1	B (9)		
	21 先人の言葉―「論語」	1	A (3)		
1	6 二通の手紙	1	C (10)		連合教科研究会 高校入試
	32 嵐の後に	1	B (8)	社会科 これからの地球社会と日本	
	29 巣立ちの歌が聞こえる	1	C (15)	音楽科 心の通う合唱 美術科 新入生向け 10 秒動画	
2	34 手紙	1	D (22)		
	30 一冊のノート	1	C (14)		
3	36 手品師	1	A (1)		送別音楽会・ 卒業式

※学期毎に道徳科の年間計画の見直しを行い、それに伴って、道徳科の内容項目と各教科・領域の資質・能力との関連を弾力的に計画する。